

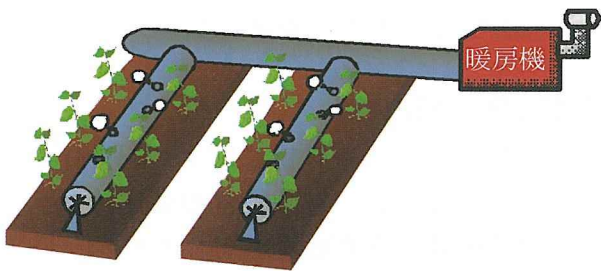
県の試験研究機関で開発した最新の技術情報を紹介します。

有孔ダクトの株元配置および循環扇併用による トマト灰色かび病発生防止技術

研究のねらい

促成トマト栽培では、多湿条件下で発生しやすい灰色かび病が大きな問題となっています。

そこで、本病が発生しにくい環境作りとして、①有孔ダクトの株元配置による温風の効果的利用(図1、写真1)、②循環扇(写真2)の併用を行い、本病の発生防止について検討しました。



〈ダクトの穴あけ例〉
穴径：約8cm 穴間隔：1m千鳥水平面から45度
小ダクトの末端は閉じる

図1 有孔ダクトの配置模式図
(ダクトのスズを閉じて、途中に開けた穴から温風を送風します。)



写真1
有孔ダクトのトマト
株元配置状況



写真2
循環扇の設置状況

技術の特徴

- 1 有孔ダクトを株元に配置すると、初期の灰色かび病の発生は、ハウスの内周にダクトを設置する慣行法より少なくなります。
- 2 循環扇を併用することで、灰色かび病の発生が多くなる3月下旬以降も、発生を低く抑えることができます(図2)。
- 3 有孔ダクトをトマトの株元(各うねの中央)に設置することで、植物体に風が直接当たりやすくなります。また、ダクトがベッ ト上にあるので各種作業への影響がありません。

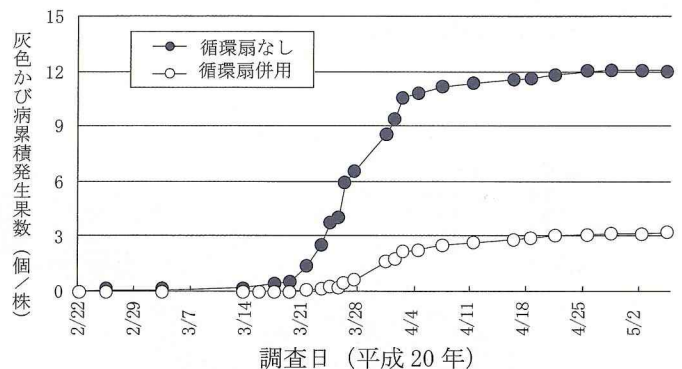


図2 循環扇の有無とトマト灰色かび病果実発生数
※ 試験ハウス：間口9m、有孔ダクトを株元配置
※ 品種：「麗容」、台木「マグネット」
※ 循環扇：フルタエアビーム出力50W、1ハウス
2基設置、終日運転

今後の取り組み

微小害虫の侵入を防ぐため、目合いの細かい防虫ネットを展張したハウスが普及しつつあります。今後は、本技術の普及と併せ、こうしたハウスの高温多湿条件の改善および灰色かび病の発生防止に取り組めます。

(執筆者：金井 幸男)